

Title	社会学関係邦文文献大要 (編年表)
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1933
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.27, No.10 (1933. 10) ,p.1559(167)- 1571(179)
JaLC DOI	10.14991/001.19331001-0167
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19331001-0167

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

尙又、筆者は、佛蘭西資本主義成立の先行條件としての原始蓄積に就いて述べた。勿論、資本主義成立の前提條件としては、資本の集積と共に、更に、多数のプロレタリアの存在を必要とする。本稿に於いては之に言及し得なかつた。之亦他日を期し度い積りである。

—一九三三・七・一五稿了—

社會學關係邦文文献大要 (編年表)

加田 哲 二

社會學關係邦文文献大要は筆者のノートを中心として作られたものであつて、従つて遺漏もまた多々あるべきことは、筆者自身最もよく知つてゐるところである。殊に社會學の範圍の限定については甚だしく苦しむところであつた。従つて、社會學關係文献といふやうな比較的漠然たる言葉を用ゐるの止む得ざるに至つたのである。

この文献大要に記されたものは、何等かの意味において、社會學に關係を有する文献であり、それが政治學的文献または經濟學的文献であつても、社會學的文献に貢献したと認められるものは擧げて置いた。かゝる基準によつたので、筆者の知識不足によつて、擧げらるべくして、脱漏してゐるものも多いかと思ふ。それに雜誌論文は全部省略せざるを得なかつた。これらの點に關して、同學諸賢の御援助によつて他日この年表が完成せらるゝときを期すものである。これは、まだその第一歩に過ぎないものである。

明治三年

加藤弘之 眞政大意
ミル 自由之理 中村正直譯

社會學關係邦文文献大要

明治四年

ミル 自由之理 中村敬宇譯

明治五年

ブルンチユリ 國法汎論 加藤弘之譯

明治六年

ギルレット 共和政治 中村敬宇譯

明治七年

加藤弘之 國體新論
シモン・ヒッセリング 表記提綱 一名政表學論 津田眞道譯

明治八年

福澤諭吉 文明論之概略
ミル 彌兒經濟論 林、鈴木譯
モンテスキュー 萬法精理 何禮之譯
ビーデルマン 立憲政體起立史 加藤弘之譯
ギゾー 西洋開化史 室田充美譯
ミル 代議政體 永峰秀樹譯
カスバル・ホプキンス 萬國政體論 三册 箕作麟祥譯

明治九年

ギゾー 歐羅巴文明史 永峰秀樹譯
政體論 小林儀秀譯 文部省版

明治十年

ミル 利學 西周譯
マルサス 人口論要略 大島貞益譯
交際篇 (百科全書ノ中) 高橋達郎譯 文部省
ルソー 民約論 服部德譯
スペンサー 權利提綱 尾崎行雄譯

明治十一年

パスチア 經濟辨妄 林正明譯
ベンサム 立法論綱 島田三郎譯
スペンサー 代議政體論 鈴木義宗譯
ミル 男女同權論 深間内基譯
ボルセー 分權論 ジブスケ譯

明治十二年

ミル 官民權限論 渡邊恒吉譯
バックル 英國文明史 土居光華、萱生泰二譯
スペンセル 干涉論 鈴木義宗譯

明治十三年

外山正一 民權辨惑
ミル 利用論 澁谷啓藏譯

明治十四年

林包明 政治論綱
スペンサー 社會平權論 松島剛譯
ボルク 政治論略 金子堅太郎譯

スペンサー 女權真論 井上勸譯

明治十五年

加藤弘之 人權新說
林包明 社會哲學
傍木哲次郎編輯 主權論
バックル 自由之理評論 土居光華、漆間眞學譯
ギゾー 歐洲代議政體起源史 漆間眞學譯
スペンサー 社會組織論 山口松五郎譯
ベンサム 政治真論 一名主權辨妄
ルソウ 民約論解 中江兆民譯
ネッケルブレー 共和原理 奧宮健之譯
ア・ロリュー 王權論 丸毛直利譯
フロット 國家生理學 文部省刊

明治十六年

有賀長雄 社會學 (一) 社會進化論 二、宗教進化論 三、
族制進化論)
植木枝盛 天賦人權辨
馬場辰猪 天賦人權論
ギゾー 代議政體原論 山口松五郎譯
ホップス 主權論 文部省
ウートルセー 政學 一名政治理學 三冊 堀口昇譯
スペンサー 道德之原理 山口松五郎譯
ペイン 政治論理法 森田隆智譯
スペンサー 社會學 大石正巳譯
ルソウ 民約論覆義 原田潜譯
スペンサー 政體原論 大石正巳譯

ベンサム 利學正宗 陸奥宗光譯
スペンサー 代議政體論覆義 宮城政明譯述

明治十七年

田口卯吉 日本開化の性質、一名社會改良論
スペンサー 社會學之原理 乘竹孝太郎譯
ケレー 圭氏經濟論 大養 教譯
スペンサー 政法哲學 濱野定四郎、渡邊治譯
アダム・スミス 富國論 石川暎作譯

明治十九年

中江篤介 理學鈞玄
田口卯吉 日本の意匠及情交、社會改良論
外山正一 社會改良と耶穌教との關係
スペンサー 宗教進化論 高橋達郎譯
ジョン・ボック 開化起源史 井出徳太郎譯述

明治二十年

中江篤介 三醉人經綸問答
小野 粹 東洋遺稿
グナイスト 西哲學物語
バックル 文明要論 辰巳小次郎譯

明治二十一年

久松義典 社會之顯象
有賀長雄 國家學
大井憲太郎 自由論略
海江田信義 須多因氏講義
リスト 李氏經濟論 大島貞益譯

明治二十二年

社會學關係邦文獻大要

野村靖編 國家論略 獨逸帝國憲法要論 學國憲法要論

明治二十三年

スペンサー 代議政體論 島田寬譯
ミル 代議政體 前橋 孝義譯

明治二十四年

大島貞益 情勢論
城泉太郎 濟世危言
ラルネット 經濟學之原理 浮田和民譯
ミル 高等經濟原論 天野爲之譯

明治二十五年

斯波貞吉 國家的社會論
ドリン 國家社會制 光吉元次郎譯
William Herbert Dawson, Bismarck and State socialism. 1891.
Henry George, Social Problem.
ヘンリー・ジョージ 社會問題 前後編 江口三省譯
スペンサー 利勢論 千田 鈞譯

明治二十六年

海江田信義 日本政綱論
藥師寺、望月共著 社會的經綸策
加藤弘之 強者の權利の競争
現時之社會主義 平民叢書 第六卷
國家と政府 平民叢書 第三卷
澁江 保 社會學
スペンサー 個人對國家論 永井久滿次譯

明治二十七年

グラハム 新舊社會主義 森山信規譯
ドクトル・エンゲル 統計の神隨一名社會狀態學 吳文聰譯
ギルバート・ハマートン 人類交際論 田中龍眉譯

明治二十九年

加藤弘之 自然界の矛盾と進化
チャーレス・ダーキン 生物始源一名種源論 立花銑三郎譯

明治三十三年

豐原又男 資本と労働の調和
横山源之助 日本之下層社會

明治三十四年

久松翁堂 近世社會主義評論
岸本能武太 社會學

明治三十五年

安部磯雄 社會問題解釋法
島田三郎 社會主義概評

明治三十六年

久松翁堂 社會研究新論
幸徳秋水 帝國主義

明治三十七年

浮田和民 帝國主義と教育
烟山專太郎 近世無政府主義

明治三十八年

杉亨二 杉先生講演集
附 杉先生實歴談及び駿河國沼津政表以下

明治三十九年

久松翁堂 社會學講義
幸徳秋水 社會主義神髓

佐藤千鶴 社會新策

安部磯雄 社會主義論

久松翁堂 社會學問答

矢野文雄 社會主義全集

ゾンバルト 十九世紀における社會主義及社會運動

Werner Sombart, Sozialismus und soziale Bewegung in 19. Jahrhundert.

明治三十七年

西川光二郎 土地國有論
樋口勘次郎 教育者と國家社會主義

田添鐵二 經濟進化論

建部遜吾 普通社會學 四册 明治三十七年—大正七年

明治三十九年

久津見藏村 無政府主義

明治四十年

堺 利彦 婦人問題

明治四十一年

堺 利彦 男女關係の進化

明治四十二年

中江篤介 兆民文集
外山正一 山存稿 二册
浮田和民 倫理的帝國主義

明治四十三年

クロボトキン 麵麴の略取 平民社譯
Peter Kropotkin, The Conquest of Bread. 1892

河田嗣郎 社會主義論
大西猪之助 帝國主義論

明治四十四年

樋口秀雄 社會學小史
今井政吉 婦人と社會

大正二年

高田保馬 分業論 初版大正二年 改版昭和二年
横井時敬 都會と田舎
グロンバリ 社會學綱要 高田保馬譯

大正五年

Alessandro Groppli, Elementi di Sociologia 1905.

大正六年

デイーレー ウォード ウォードの社會學 藤森達三譯
Dealey and Ward, A Text-book of Sociology. 1905.
ルトウルノ 男女關係の進化 大杉 榮譯
Letourneau, L'Evolution du Mariage et de la Famille

大正七年

河上 肇 貧乏物語
クロボトキン 相互扶助論 大杉 榮譯
Peter Kropotkin, Mutual Aid.

大正八年

高田保馬 社會學原理
高田保馬 社會的研究
田邊 元 科學概論

大正九年

河田嗣郎 家族制度研究

社會學關係邦文獻大要

社會學關係邦文獻大要

大正九年

ルソー 民約論 市村光惠、森口繁治共譯

高田保馬 社會と國家

大杉 榮 クロボトキン研究

米田庄太郎 軌近社會思想の研究 上卷
新カント派の社會觀

大正十年

ミューアラリヤ 文化の諸相と其進路 鼓 常良譯
Miller-Lyer
Phasen der Kultur und Richtungslinie des Fortschrittes. 1923.

プルドン 財産とは何ぞや 新明正道譯
Joseph Proudhon, Qu'est-ce que la Propriété?

大正十一年

戸田貞三 私有財産問題

遠藤隆吉 社會學原論

中島 重 多元的國家論

高田保馬 現代社會の諸研究

高田保馬 社會學概論

河上 肇 社會組織と社會革命

長谷川萬治郎 現代社會批判
マックワイバア 社會學 井上吉次郎譯

MacIver, Community の簡略譯

コンセンナニ 發生的社會學 田邊壽利譯

有史以前の思想及び社會生活に關する論文
Francesco Cozzani, La Sociologie Génétique. 1905.

シモン・ド・ソウレン 社會原力の理論 秋葉 隆譯

141 (1563)

大正十二年

- Simon N. Patten, The Theory of Social Forces. 1896.
- 土田杏村 新社會學
- 小林 郁 社會學概論
- 河合榮次郎 社會思想史研究 第一卷
- 加田哲二 國家學說と社會思想
- 恒藤 恭 シムメルの經濟哲學
- 室伏高信 文明の没落
- ルネ・ヴォルムス 社會學の本質 田邊壽利譯
- René Worms, La Sociologie sa nature, son contenu, ses attaches. 1921.
- シ・ホム・ミル 婦人解放論 大内兵衛譯
- J. S. Mill, Subjection of Women. 1869.
- スアール 社會學體系論 波多野 鼎譯
- Paul Barth, Philosophie der Geschichte als Soziologie 前編
- タルト タルトの社會學原理 風早八十二譯
- Gabriel Tarde, Les Lois sociales, Esquisse d'une sociologique. Ed. 8. 1921.

大正十三年

- 恒藤 恭 社會と意志
- 加田哲二 ウィリアム・モリス
- 室伏高信 土に還る
- 上野直昭 精神科學の基本問題
- 川邊喜三郎 社會學原論
- 桑田芳藏 ヴントの民族心理學
- ゲオルク・ヴィンチ・プレハノン マルクス主義の根本問題 恒藤 恭譯

大正十四年

- ウターム 純正社會學 上卷 石川 功譯
 - Lester Ward. Pure Sociology. 1903.
 - ラングエンホーナー 社會學的認識論 宮崎市八譯述
 - Gustav Ratzenhofer, Die soziologische Erkenntnis. 1896. 抄譯
 - アントン・メンガー 全勞働收益權史論 森戸辰男譯
 - Anton Menger, Das Recht auf Vollenarbeitsbeitrag seine geschichtliche Darstellung. 3. Aufl. 1903.
 - ガブリエル・タルト 模倣の法則 風早八十二譯
 - Gabriel Tarde, Les Lois de l'imitation. Etude sociologique. 5me éd. 1907.
- 丸山岩吉 社會學入門
- 平野義太郎 法律における階級闘争
- 高田保馬 階級考
- 杉山 榮 社會學十二講
- 横濱社會問題研究所編 新カント派の社會主義觀
- 波多野 鼎 社會思想史
- 松下羨男 無産階級と國際戰
- 高野岩三郎 社會統計學史研究 第一卷
- 高田保馬 階級及第三史觀
- ラファルグ 財産の進化 高島素之譯
- Paul Lafargue, The Evolution of Property.
- ソオスタイン・ヴェンレン 特權階級論 猪俣津南雄譯
- Thorson Veblen, The Vested Interests and the Common man. 1919.
- ガブリエル・タルト 未來史の斷片 田邊壽利譯

大正十五年

- Gabriel Tarde, Fragment d'histoire Future. 1904.
 - マルクス・エンゲルズ フォイエルバッハ論 佐野文夫譯
 - ゾムバート 社會主義及社會運動 林 要譯
 - Werner Sombart, Sozialismus und soziale Bewegung. 1919.
 - デュルケム 社會學と哲學 山田吉彦譯
 - Emile Durkheim, Sociologie et Philosophie. 1924.
- 佐喜眞興英 女人政治考 人類原始規範の研究
- 岩崎卯一 社會學の人と文獻
- 黒正 巖 農業共産制史論
- 福本和夫 社會の構成並に變革の過程
- 福本和夫 唯物史觀と中間派史觀
- 林惠海 シムメル 社會學方法論の研究
- 高田保馬 社會關係の研究
- 津久井龍雄 ヲントの實證哲學
- 野崎泰秀 小さな社會學
- 二階堂根久 初夜權
- Jus Primæ Noctis の社會學的攻究
- 福島 經 社會心理學
- ハッバート 民族と其問題 堀江頼廣譯
- Sydney Herbert, Nationality and its problems.
- シムメル 社會學の根本問題 小田秀人譯
- Georg Simmel, Grundfrage der Soziologie.
- レオン・デュギイ 國家變遷論 木村維三譯
- Léon Duguit, Le droit social, le droit individuel et la transformation de l'état 2e ed. 1922.

昭和二年

社會學關係邦文獻大要

- 高田保馬 人口と貧乏
 - 石田文次郎 土地總有權史論
 - 井森陸平 形式社會學研究
 - 杉森孝次郎 社會學
 - 田村 浩 琉球共産村落之研究
 - 市川一郎 シュプランガン文化哲學の本質
 - クノー 婚姻及び家族の原史について 服部之總譯
 - Heinrich Cunow; Zur Urgeschichte der Ehe und Familie Ergänzungshäfte zur Neuen Zeit.
 - エンゲルス、反テューリント論 河野 密、林要共譯
- フーリン 史的唯物論 檜譯
- コロンタイ 婦人家族制度 山川菊榮譯
- ルソオ 民約論 平林初之輔譯
- Rousseau, Contrat social.
- テュニーム 共同社會と利益社會 井森陸平譯
- Ferdinand Tönnies, Gemeinschaft und Gesellschaft.
- シムメル 社會的分化論 五十嵐信譯
- ゲオルク・ルカッチ 階級意識とは何ぞや 水谷長三郎譯
- Georg Lukacs, Geschichte und Klassenbewusstsein. の一節
- アーサー・レウキス 社會主義社會學 高島素之譯
- Arthur Lewis, An Introduction to Sociology.
- シノヴィエフ マルクス・エンゲルズと戰爭問題 佐野 學譯
- Sinoviev, Der Krieg und die Krise des Sozialismus の一節
- 對支非干涉同盟編 レニン主義と戰爭問題
- ブーグレ 平等思想の社會學的考察
- 附 分業論 本田喜代治、木村健助譯
- C. Bouglé, Les Idées égalitaires, etude sociologique. 3e ed.

カウツキー マルキニズムの人口論 松下芳男譯
Karl Kautsky, Vermehrung und Entwicklung in der
Gesellschaft.

昭和三年

- 入谷智定 集團心理學
- 土田杏村 社會哲學概論
- 加田哲二 近世社會學成立史
- 小松堅太郎 社會學論考
- 波多野 鼎 社會思想史概説
- 小松堅太郎 社會學概論
- 室伏高信 大衆時代の解剖
- 新明正道 形式社會學論
- 笠信太郎 シュペングラアの歴史主義的立場
- 松本潤一郎 現代社會學說研究
- 穗積陳重 神權説と民約説
- 杉山 榮 社會科學概論
- 三木 清 唯物史觀と現代の意識
- 岩崎卯一 社會學說序説
- 南 亮三郎 社會哲學と思想問題
- 土田杏村 社會哲學
- 戸田貞三 社會學講義案 第一冊
- モンテスキュー 法の精神 上下 宮澤俊義譯
- Montesquieu, De l'esprit des lois.
- ロント 實證哲學 上下 昭和六年 下 昭和三年
石川三四郎譯
- August Comte, Philosophie Positive. Emile Rigolage
四冊 拔萃本

ミル 功利主義 高橋 久則譯
Mill Utilitarianism. 高橋 久則譯
婦人の隷従
Subjection of Women.

昭和四年

- 今井時郎 社會學大綱
- 戸坂 潤 科學方法論
- 三木 清 社會科學の豫備概念
- 新明正道 群集社會學
- 關榮吉 社會學研究
—形式社會學、歴史哲學、文化社會學及日本社會學の研究
—下地寛令 社會學概論
- 關 英吉 文化社會學概論
- 新明正道 社會學
- 江澤一三 帝國主義の經濟的考察
- 羽仁五郎 轉形期の歴史學
- 室伏高信 街頭の社會學
- 室伏高信 反亂の社會學
- 金子鷹之助 社會哲學史研究
- 新明正道 獨逸社會學
- 三木 清 史的觀念論の諸問題
- 今井時郎 社會誌學研究法
- 石田文治郎 ギーケルの團體法論
- ブレハハフ 史的一元論 川内唯彦譯
- レーニン 唯物論と經驗批判論 山川均、大森義太郎譯
- メーリング 唯物史觀 岡田宗司譯
- ハイリッヒ・クノー著 マルクスの歴史社會並に國家理論(下)

社會學關係邦文文献大要

- ベーベル 婦人論 二冊 草間平作譯
- August Bebel, Frau und Sozialismus. 1879.
- エンキーハン 共同社會、結社、國家 原 實譯
- Elements of social science.
- デュルケム 社會學研究法 田邊壽利譯
- Emile Durkheim, Les règles de la methode sociologique. 1895.
- フアン・タイーギ 社會學 歴史及主要問題 黒川純一譯
- ポール・ジャネ サン・シモン及びピサンシモニスム 大岩 誠譯
- Paul Janet, Saint-Simon et le Saint-simonisme. 1878.
- ボクダーノン マルクス主義階級意識學(一九一三年) 林房雄譯
- ジョルジュ・ソレル 暴力の倫理 小野十三郎譯
- George Sorel, Reflexions sur la violence. 第三章
- クロネーキン 近代科學のソナーキスム 服部 豊譯
- Kropotkin, Modern Science and Anarchism.
- ガブリエル・タルド 輿論の群集 赤坂靜也譯
- Gabriel Tarde,
- キントノオーゲン ソルニョフ社會の科學 北村奎之介譯
- Karl Wittvogel, Die Wissenschaft der tingerischen
Gesellschaft. 1922.
- ハンナントマン 氣候と文明 間崎万里譯
- E. Hatchington, Civilization and Climate. 1915.
- ジメネリー 家族の起源 隈崎 渡譯
- ベンサム 功利論 田村佐重譯
- Bentham, Introduction to the Principles of Moral and
Legislation. 1789.
- ミル 自由論 高橋久則譯
- Mill. On Liberty.

鳥海、森谷、濱島共譯

- Heinrich Cunow. Die Marsche Geschichts-Gesellschafts- und
Staatstheorie II Band.
- カウツキー 倫理と唯物史觀 山利英一譯
- Karl Kautsky; Ethik und materialistische Geschichtsauffassung.
- イェリネック 人權宣言論外三篇 美濃部達吉譯
- Georg Jellinek, Die Erklärung der Menschen- und
Bürgerrecht. 1895.
- ジョルジュ・ソレル 暴力考 西川 勉譯
- Georges Sorel, Reflexions sur la violence. 1908
- アントン・メンガー 新國家論 河村又介譯
- Anton Menger, Neue Staatslehre. 1902.
- ハンヌス・ローン 近代帝國主義の其の發端 田畑三四郎譯
- Plebs League, An Outline of Imperialism.
- フンタリス 家族、私有財産及び國家の起源 西 雅雄譯
- Friedrich Engels, Ursprung der Familie, des Privateigentums
und des Staates. 1888.
- リッター 戦争の生物學 上下 山本宣治譯
- Georg Nicolai, Biologie des Krieges
- マックス・アドラー マルキニズム國家觀 山本翠譯
- Max Adler, Staatsauffassung des Marxismus. 1922.
- ロマンテルン 戦争 戦争問題諸文書 今村保男譯
- ペーメル 婦人論 山川菊榮譯
- August Bebel, Frau und Sozialismus
- ラッパポート 社會進化と婦人の地位 山川菊榮譯
- Philip Rapaport. Looking Forward.
- ホッペンハイマン 國家論 廣島定吉譯

Franz Oppenheimer, Der Staat.
 国家論
 G. W. Hegel, Encyclopädie der philosophischen Wissenschaften in Grundriss. ①緒論及び第一部の翻譯
 杉山 榮 社會科學十二講
 ②第二部の翻譯
 フランクス・エンゲルスの翻譯
 現代的諸傾向
 ③第三部の翻譯
 佐野 學 戰爭論、國家論(佐野學集)
 ④第四部の翻譯
 戸坂 潤 イデオロギーの論理學
 ⑤第五部の翻譯
 マルクス・エンゲルスの翻譯
 河上 肇、森戸辰男、柳田民藏譯
 辯證法(「ヘーゲル」論理學「批判」) 川内唯彦譯
 ⑥第六部の翻譯
 モルガン 古代社會 上下 山本琴、佐々木巖譯
 Lewis Morgan, Ancient Society. 1877.
 ⑦第七部の翻譯
 ウィリアム・ゴドウィン 政治的正義 加藤一夫譯
 William Godwin, Political Justice. 1793. 部分譯
 ⑧第八部の翻譯
 ホブソン 帝國主義論 石澤新二譯
 J. A. Hobson, Imperialism. a Study. 1902.
 ⑨第九部の翻譯
 ハーバート・バナー 世界帝國主義論入門 上田茂樹譯
 Michael Pavlovitch, the Foundations of Imperialist Policy. 1922.
 ⑩第十部の翻譯
 ゴーッテ 唯物論史 上下 賀川豊彦譯
 Albert Lange, Geschichte des Materialismus. 1866.
 ⑪第十一部の翻譯
 ヴェイヤ 英國社會主義史 上下 加田哲二、岡乾治譯
 Max Beer, History of British Socialism 2 vols. 1921.
 ⑫第十二部の翻譯
 ブロイド 民族の起源とその發達 高橋 實譯
 キンズリング 社會學原理 内山賢次譯
 Henry Giddings, The Principles of Sociology. 3rd ed. 1921.
 ⑬第十三部の翻譯
 ウォード 社會學要論 内山賢次譯
 Lester Ward and James Dealey, A Text-book of Sociology. 1906.
 ⑭第十四部の翻譯
 羽仁五郎、小倉金之助、三木清、戸坂潤、佐野學、本多謙三著
 唯物史觀序說
 林 惠海 人口理論 研究と方法
 石濱知行 社會變革過程の諸問題
 實 傳松 社會學要論
 河上 肇 第二貧乏物語
 大泉行雄 社會思想家としてのシモン・デュナン・ミル

堀 眞翠 國家論
 杉山 榮 社會科學十二講
 フランクス・エンゲルスの翻譯
 現代的諸傾向
 佐野 學 戰爭論、國家論(佐野學集)
 戸坂 潤 イデオロギーの論理學
 マルクス・エンゲルスの翻譯
 河上 肇、森戸辰男、柳田民藏譯
 辯證法(「ヘーゲル」論理學「批判」) 川内唯彦譯
 モルガン 古代社會 上下 山本琴、佐々木巖譯
 Lewis Morgan, Ancient Society. 1877.
 ウィリアム・ゴドウィン 政治的正義 加藤一夫譯
 William Godwin, Political Justice. 1793. 部分譯
 ホブソン 帝國主義論 石澤新二譯
 J. A. Hobson, Imperialism. a Study. 1902.
 ハーバート・バナー 世界帝國主義論入門 上田茂樹譯
 Michael Pavlovitch, the Foundations of Imperialist Policy. 1922.
 ゴーッテ 唯物論史 上下 賀川豊彦譯
 Albert Lange, Geschichte des Materialismus. 1866.
 ヴェイヤ 英國社會主義史 上下 加田哲二、岡乾治譯
 Max Beer, History of British Socialism 2 vols. 1921.
 ブロイド 民族の起源とその發達 高橋 實譯
 キンズリング 社會學原理 内山賢次譯
 Henry Giddings, The Principles of Sociology. 3rd ed. 1921.
 ウォード 社會學要論 内山賢次譯
 Lester Ward and James Dealey, A Text-book of Sociology. 1906.
 羽仁五郎、小倉金之助、三木清、戸坂潤、佐野學、本多謙三著
 唯物史觀序說
 林 惠海 人口理論 研究と方法
 石濱知行 社會變革過程の諸問題
 實 傳松 社會學要論
 河上 肇 第二貧乏物語
 大泉行雄 社會思想家としてのシモン・デュナン・ミル

昭和五年

赤神良讓 社會學入門
 エアソン 科學概論 平林初之輔譯
 Karl Pearson, Grammar of Science. 1892.
 シヤール・フーリエ 社會主義要綱 安谷寛一譯
 Charles Fourier, Le Socialisme socialte.
 プルウドン 勞働階級の政治的能力 石川三四郎譯
 Proudhon, De la capacité politique des classes ouvrières.
 ネットランツ 無政府主義思想史 新居 格譯
 Netlau, Der Anarchismus von Proudhon zu Kropotkin.
 ソレル マルクス説の崩壊 百瀬二郎譯
 Sorel, Decomposition du Marxisme.

昭和六年

加田哲二 近代唯物的社會觀の發展
 田村 浩 農漁村共產體の研究
 田邊壽利 フランス社會學史研究
 近藤榮藏 帝國主義とは何か
 藤井新一 社會學的政治學論評
 岩崎卯一 社會統制理論の研究
 吾妻東一 基督教と資本主義
 ブハーン・ブレオラン・チエスキ
 社會主義入門(共產主義のABC)
 カール・カウツキー 唯物史觀(第一書精神と世界)
 藤井悌、佐多忠隆共譯
 ラインゲルト、シルヴィント共著 史的唯物論教程
 プロ科學研究所譯
 イー・ラインシュタイン マルクス、レーニンに於ける辯證法
 直井武夫譯

昭和七年

イー・ラインシュタイン ヘーゲル辯證法批判 直井武夫譯
 プレンス・リリー編 帝國主義發達史論 内田佐久郎譯
 On Outline of modern Imperialism.
 ルドルフ・スタムラー 唯物史觀批判 國松久彌譯
 Rudolf Stammler, Die materialistische Geschichtsauffassung. 1927.
 エミール・デュナン 原始財産 長野兼一郎譯
 Emile de Laveleye, Primitive Property. English translation. 1878.
 クラウゼヴィッツ 戰爭論 上下 馬込健之助譯
 Karl von Clausewitz, Vom Kriege. 1832.
 社會學研究會譯 イデオロギー論
 メーリング 獨逸社會民主黨史 四册
 Franz Mehring, Geschichte der deutschen Sozialdemokratie.
 マルセル・メーヌ 社會學概論 淺野研眞譯
 Marcel Dert, Sociologie. 1925.
 マックス・アドラー マルクス主義の國家觀 井原 紘譯
 Max Adler, Staatsauffassung des Marxismus. 1922.
 マックス・アドラー カンタウ・マルクス主義
 Max Adler, Kant und Marxismus. 1925.
 シュパン 經濟と社會學 向井暎一譯
 シュパン 社會學方法論 同
 フィヤカント 現代の國家と社會 谷藤重吉譯

社會學關係邦文獻大要

一七八

(一五七〇)

- 井上吉次郎 *ルンペン社會學*
- 加田哲二 *國民主義と國際主義*
- 下山隼吉 *明治社會思想研究*
- 新明正道 *社會學序論*
- 住谷悦治 *プロレタリアの社會學*
- 社會學研究會編 *文化社會學*
- 松本潤一郎編 *社會學 學說と展望*
- 細井 龜市 *農奴社會史考*
- 羽仁五郎 *歴史學批判序説*
- 戸坂 潤 *イデオロギー概論*
- 社會學研究會編 *知識社會學*
- 小松堅太郎 *知識社會學批判*
- 野村兼太郎 *世界經濟發展史論*
- 荒畑寒村 *戰爭論*
- 新明正道 *知識社會學の諸相*
- 正木千冬 *戰爭經濟學*
- メドヴェーヂェフ編纂 *エリ・ツィロク・ウエー・ラリチエヴィツチ校閱*
- 史的唯物論
- 平野義太郎編 *マルクス・エングルスにおける史的唯物論と法律* 大畑書店
- マックス・アドラー *マルキシズム方法論* 福田次郎譯 改造文庫
- ツイミヤンスキー *辯證法的唯物論* 廣島定吉、直井武夫譯 改造社
- イー・シロコフ、アー・アイゼンベルク共著 *廣島定吉、直井武夫譯*

- 辯證法的唯物論教程 白揚社
- デュルケム *社會的分業論 第一分冊* 山邊壽利譯
- Emile Durkheim, *De la Division du travail social.* 1893.
- ハインリッヒ・エントノー *宗教及び信仰の起源* 玉城肇譯
- Heinrich Cunow, *Ursprung der Religion und des Gottesglaubens.* 1920.
- デュルケム *自殺論* 鈴木宗忠、飛澤謙一譯
- Emile Durkheim, *Le Suicide, Etude de Sociologie.* 1897.
- ホブソン *近代資本主義發達史論 上* 住谷悦治等譯
- J. A. Hobson, *Evolution of modern Capitalism.* 1926.
- 土井三郎編 *クラウゼヴィッツ戰爭概論*
- クラーウゼヴィッツ *戰爭の本質、戰略篇*
- マレー *戰爭論* クラウゼヴィッツの手引 荒木武正譯
- Stewart L. Murray, *The Reality of War.* 1914.
- ルカチェフスキ *唯物史觀 宗教の起源及本質* 岩村伍一郎譯
- ピグー *戰爭經濟學* 高橋清三郎譯
- Pigou, *Political Economy of War.*
- ジムメル *社會學の根本問題* 堀 眞琴譯
- ボチャロフ、ヨアミニアンニ共著
- 唯物史觀 *世界史教程 五卷* 早川二郎譯
- ロバート・オーエン *社會に就ての新見解* 加藤一夫譯
- Robert Owen, *New View of Society.*
- ルイ・ブラン *労働の組織* 淺野研眞譯
- Louis Blanc, *Organisation du Travail.* 1839.

昭和八年

- 加田 哲二 *明治初期社會思想の研究*
- 鈴木榮太郎 *農村社會學史*

- 戸田貞三 *社會學講義案*
- 清水幾太郎 *社會學批判序説*
- 大森義太郎 *唯物辯證法讀本*
- ソヴェート・マルクス主義東洋學者協會編 *アジア的生產株式に就て* 早川二郎譯
- ミーチン、ラズウモフスキー *史的唯物論(第三分冊)* 廣島定吉、直井武夫譯
- ミーチン、ラズウモフスキー *史的唯物論(第二分冊)* 廣島定吉、直井武夫譯
- ラリツェヴィツチ編 *辯證法的唯物論(史的唯物論第一分冊)* 永田廣志譯
- フォン・ウイーゼ *團體學* 黒川純一譯
- L. v. Wiese, *Allgemeine Soziologie II.*